

授 業 概 要

～保育士科～

講師名右に※印がついてる者は、科目に関する実務経験を有する職員である

必修 科目	授 科 目 名	心理学と心理的支援	担 当 教 員	大井 彰之		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・1年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>現在、心理学は、人間の前身のシステムについて広範な研究が行われている。本講義においては、現在までの心理学に関する様々な基礎知識を整理し、重要な概念や理論について理解することと、将来的にソーシャルワークの現場で必要とされる知識や技能についても把握し、現代社会の中で問題となっている多くの出来事についても関心を持ち、それらの問題の参照となるような有機的な知識を身につけるような学習を展開する。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 心理学の視点 2 人の心の基本的な仕組みと機能 3 人の心の発達過程 4 日常生活と心の健康 5 心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本 6 ソーシャルワークと心理学 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援』（中央法規出版）				
参 考 書						

選 択 科 目	授 業 目 名	社会学と社会システム	担 当 教 員	藤原 真名夫		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・1年次	単位	2
<p>授業目標</p> <p>われわれは社会の中で生活している。社会は日常的に私たちのすぐ横にある。この当たり前事実。しかし、この身近なはずの社会は改めて眺めてみると思いのほか不思議に充ち満ちています。これらの謎を探る先人達の努力、そのヒントや考察のための道具について考えていきたいと思ひます。社会における様々な事象を、「当たり前」、「常識」で流してしまうのではなく、ふと立ち止まって眺め、考えてみることを「社会学」の第1歩としましょう。社会的な福祉領域における社会学の意義とは、状況や問題といった目の前に現れてくる「ありのままの現実」をかなう限りそのままに捉え、さらに、その「現実」の生じてくる原因やプロセスを探っていくことにあるのではないのでしょうか。古今の社会学者たちは、こうした「現実」の裏側を探るツールを様々な考察・考案してきたわけですが、残念ながら完全なるツールは見つかってはおりません。みなさんが先人達の知恵をふまえ、今後の生活・職場の中でそれを発展展開させる実践としての社会学を「おこなって」いかれる事を期待いたします。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン 2 社会学史1 3 社会学史2 4 社会学史3 5 自己と他者 6 家族1 7 家族2 8 地域 9 社会構造1 10 社会構造2 11 産業 12 生活1 13 生活2 14 組織 15 社会的課題 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座3 社会学と社会システム』（中央法規出版）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	医学概論	担 当 教 員	川崎 詔子		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・1年次	単位	2
<p>授業目標</p> <p>現在の日本は、世界でも類を見ない少子・高齢化が進行中であり、すでに人口減少が始まっております。人口の自然増加が見込めない状態でありながら、高齢化社会に特有の慢性疾患、精神・神経疾患が多発する社会であります。</p> <p>また疾患が生活習慣病にシフトしてきている現状に鑑み、予防医学が重視されつつあります。治癒後の社会復帰を促進するリハビリテーション医学やQOL改善の観点から、終末期医療も重視されてきています。</p> <p>ソーシャルワーカーの提供する援助は、生活支援であります。医師などの提供する医療行為と密接に関連しつつ支援を行う必要があります。その意味でチーム医療の一環として、医学・医療の知識を持ち、医療職と同等の医療的価値観を持つことが重要です。その意味で、ソーシャルワーカーの業務遂行にとって必要不可欠な要素としての医学一般科目修得と考えて学習して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 2 国際生活機能分類(I C F)の基本的考え方と概要について理解する。 3 リハビリテーションの概要について理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ライフステージにおける心身の変化と健康課題 2 健康および疾病の捉え方 3 身体構造と心身機能 4 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程 5 公衆衛生 <p>医学概論は、専門用語などなじみのない用語も多く、最初は苦勞するかもしれませんが、段々慣れてきます。テキストを繰り返し読むことが重要です。</p>						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座1 医学概論』 (中央法規出版)				
参 考 書		『改訂 介護職・福祉職のための医学用語辞典』 (中央法規出版)				

必修 科目	授 業 目 名	英 語	担 当 教 員	高瀬 少輔		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・1年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>この科目では、表現を自分が理解するところから一步踏み込んで、教材を使って日常的には英語に接する環境に暮らしていないこどもたちにいかに違和感なく英語に親しみを持つように指導するかを見出していきたいと思っている。英語自体の基礎的な指導は行うが、展開の仕方は担当者と受講者の共同作業の中からより良いものを見つけ出していきたい。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 イントロダクション 3 場所・時・色・数・動作、その他基本になる英語の基礎をもう一度確認しておこう 4 動物を素材にして数に関する表現を復習 5 身体的特徴を素材に形態をあらわす表現 6 相手との情報交換の手段 7 同一と差異を考える(1) 8 同一と差異を考える(2) 9 色に関する情報を交換しよう 10 日常用具を表現するアイデア 11 衣服に関する表現を使った英語ゲーム 12 相手や第三者の場所や動作を尋ねる表現 13 プレゼンテーション(1) 14 プレゼンテーション(2) 15 前半まとめ 16 基礎事項の復習(1) 17 基礎事項の復習(2) 18 色彩、動作に関する表現の復習 19 複数単数の表現の違い 20 場所、動作に関する表現、 21 ものがあある場所を情報交換する表現 22 さあ～をしようという表現 23 時勢の表現 24 感情の表現 25 こどもの活動、遊戯での表現 26 挨拶から活動の終わりまでの表現 27 プレゼンテーション(1) 28 プレゼンテーション(2) 29 プレゼンテーション(3) 30 まとめ 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		冊子を配布				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	保健体育(講義)	担 当 教 員	川崎 詔子		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・1年次	単 位	1
<p>授業目標</p> <p>日常生活での関わりにおいて、人間関係とコミュニケーションの問題は常に多くの人の悩みの上位を占めています。自分らしくいきるためには、周囲の関係はもちろん、自分自身を知り、向き合っていくことが大切です。自己表現（アサーション）をしっかりと理解し、他人とも自分とも上手く付き合っていきましょう。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分探しのメカニズム 2 ありのままの自分に出会うには 3 自分の特徴を知る 4 自分を伝えることの意味（コミュニケーションのしくみと効果） 5 3つのタイプの自己表現 6 自己表現に必要な4つのスキル 7 アサーション・トレーニングのポイント 8 自分と付き合う 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 45時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		自己カウンセリングとアサーションのすすめ（金子書房）				
参 考 書		運動があなたの老後を180度変える！ 人生が健康になる教科書 ～生涯自立に向けて～（ギャラクシーブックス）				

必修 科目	授 科 目 名	保健体育(実技)	担 当 教 員	藪中 佑樹		
	授 業 方 法	実 技	開講期・年次	1 年次	単 位	1
<p>授業目標</p> <p>生涯を通じて健やかに過ごすために、自身の身体と心の仕組みを学習することはとても重要です。本科目の授業を通して得られる知識が、これからの生活を健康で有意義に過ごすための一助となるだけでなく、卒業後の人生を豊かにし活力ある家庭や社会を築くことを目指します。</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康の維持・増進のための理論を学習し、理解することができる。 自己の体力特性を理解した上で様々な運動を実施するための基礎的な知識・技術を習得することができる。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> エビデンスのあるデータを用いて適切な答えを判断することができる。 仲間と十分なコミュニケーションを図りながら物事を解決することができる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に参加し、自身の健康について考え直すことができる。 自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるすることができる。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 健康とは？ 生涯スポーツと競技スポーツ 自分の体力を測定しよう 身体を動かそう①ストレッチ、有酸素運動 こころの健康を保つ方法 子どもへの運動指導 身体を動かそう②筋力トレーニング 運動がうまくなるメカニズム スポーツにおけるコーチング 身体を動かそう③ボールを使った運動 運動指導の基礎 運動指導を体験しよう まとめ テスト 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		面接授業（スクーリング）時間数 30 時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		適時資料を配布				
参 考 書		『これからの健康とスポーツの科学』（講談社）				

必修 科目	授 業 目 名	保育原理	担 当 教 員	平林 大佑*		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	後期・1年次	単 位	2
<p>実務経験のある教員などによる科目 保育現場の経験を基に保育の現状や課題を伝えると共に、子どもの最善の利益とは何か保育の意義や目的の重要性について授業を展開していく</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育の意義及び目的について理解する。 2 保育に関する法令及び制度を理解する。 3 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育の意義及び目的 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の理念と概念 (2) 子どもの最善の利益と保育 (3) 子ども家庭福祉と保育 (4) 保育の社会的役割と責任 2 保育に関する法令及び制度 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関係法令 (2) 子ども・子育て支援新制度 (3) 保育の実施体系 3 保育所保育指針における保育の基本 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所保育指針 (2) 保育所保育に関する基本原則 (3) 保育における養護 (4) 保育の目標 (5) 保育の内容 (6) 保育の環境・方法 (7) 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）とその循環 4 保育の思想と歴史的変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1) 諸外国の保育の思想と歴史 (2) 日本の保育の思想と歴史 5 保育の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 諸外国の保育の現状 (2) 日本の保育の現状と課題 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ① 保育原理』（中央法規出版） 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社） 『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（フレーベル館）				
参 考 書						

必修 科目	授 科 目 名	子ども家庭福祉	担 当 教 員	古谷 泰啓		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	中期・1年次	単位	2
授業目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2 子どもの人権擁護について理解する。 3 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 						
授業内容の計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子ども家庭福祉の理念と概念 (2) 子ども家庭福祉の歴史の変遷 (3) 現代社会と子ども家庭福祉 2 子どもの人権擁護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの人権擁護の歴史の変遷 (2) 児童の権利に関する条約 (3) 子どもの人権擁護と現代社会における課題 3 子ども家庭福祉の制度と実施体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子ども家庭福祉の制度と法体系 (2) 子ども家庭福祉の実施体系 (3) 児童福祉施設 (4) 子ども家庭福祉の専門職 4 子ども家庭福祉の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 少子化と地域子育て支援 (2) 母子保健と子どもの健全育成 (3) 多様な保育ニーズへの対応 (4) 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止 (5) 社会的養護 (6) 障害のある子どもへの対応 (7) 少年非行等への対応 (8) 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 5 子ども家庭福祉の動向と展望 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 (2) 地域における連携・協働とネットワーク (3) 諸外国の動向 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教科書		『新・基本保育シリーズ③ 子ども家庭福祉 第2版』（中央法規出版）				
参考書						

必修 科目	授 業 目 名	社会福祉	担 当 教 員	小保方 敬子		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	中期・1年次	単位	2
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3 社会福祉における相談援助について理解する。 4 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5 社会福祉の動向と課題について理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の理念と概念 (2) 社会福祉の歴史の変遷 (3) 子ども家庭支援と社会福祉 2 社会福祉の制度と実施体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の制度と法体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関 (3) 社会福祉施設 (4) 社会福祉の専門職 (5) 社会保障及び関連制度の概要 3 社会福祉における相談援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 相談援助の理論 (2) 相談援助の意義と機能 (3) 相談援助の対象と過程 (4) 相談援助の方法と技術 4 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報提供と第三者評価 (2) 利用者の権利擁護と苦情解決 5 社会福祉の動向と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 少子高齢化社会における子育て支援 (2) 共生社会の実現と障害者施策 (3) 在宅福祉・地域福祉の推進 (4) 諸外国の社会福祉の動向 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ④ 社会福祉 第2版』（中央法規出版）				
参 考 書		『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉 [第4版]』（中央法規出版）				

必修 科目	授 業 目 名	子ども家庭支援論	担 当 教 員	小保方 敬子		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	後期・1年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 <p>授業内容の計画</p> <p><u>子ども家庭支援の意義と役割</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭支援の意義と必要性 2 子ども家庭支援の目的と機能 <p><u>子育て家庭に対する支援の体制</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 3 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 4 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 <p><u>保育士による子ども家庭支援の意義と基本</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 5 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 6 子どもの育ちの喜びの共有 7 保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 8 保育士に求められる基本的態度 9 家庭の状況に応じた支援 10 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 <p><u>多様な支援の展開と関係機関との連携</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 11 子ども家庭支援の内容と対象 12 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 13 地域の子育て家庭への支援 14 要保護児童およびその家庭に対する支援 15 子育て支援に関する課題と展望 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑤ 子ども家庭支援論 第2版』（中央法規出版）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	保育の心理学	担 当 教 員	小川 万希子		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	中期・1年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>子どもの発達に関する心理学諸理論を学び、基本的な知識を習得することを通じて「発達的な見方」の基礎を培うことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの発達を理解することの意義 2 子どもの発達と環境 3 発達理論と子ども観・保育観 4 保育実践を評価する 5 社会情動的発達①自我 6 社会情動的発達②他者 7 社会情動的発達③他者との関わり 8 身体的機能と運動機能の発達 9 認知の発達 10 数の認識の発達 11 言語の発達 12 乳幼児期の学びに関わる理論 13 社会情動的学び 14 認知的学び 15 乳幼児期の学びを支える保育 <p>(学習について)</p> <p>日常生活の中で人を「発達的な見方」で観察してみてもらいたい。 また、できる限り新聞・報道に関心を持つこと。</p>						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑧ 保育の心理学』（中央法規出版）				
参 考 書		『子どもの心の発達がわかる本』（講談社） 『ちゃんと泣ける子に育てよう』（河出書房新社） 『発達がわかれば子どもが見える』（ぎょうせい）				

必修 科目	授 業 目 名	子どもの理解と援助	担 当 教 員	大井 彰之		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	1 年次	単 位	1
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの実態に応じた発達や学びの把握 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育における子どもの理解の意義 (2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 (3) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 2 子どもを理解する視点 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの生活や学び (2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 (3) 子ども相互の関わりと関係づくり (4) 集団における経験と育ち (5) 葛藤やつまずき (6) 保育の環境の理解と構成 (7) 環境の変化や移行 3 子どもを理解する方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 観察 (2) 記録 (3) 省察・評価 (4) 職員間の対話 (5) 保護者との情報の共有 4 子どもの理解に基づく発達援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 発達の課題に応じた援助と関わり (2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 (3) 発達の連続性と就学への支援 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		面接授業（スクーリング） 15 時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑩ 子どもの理解と援助』（中央法規出版）				
参 考 書		『育てにくい子にはわけがある』（大月書店）				

必修 科目	授 業 目 名	子どもの保健	担 当 教 員	川崎 詔子		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	中期・1年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>子どもの保健とは、からだと心の健康を保ち、増進するためにおこなう専門的な行為です。専門的な行為ですから、その裏には知識と技術が必要となります。</p> <p>この科目では、子どもの身体発育や生理機能の特性、子どもの健康状態とその把握、疾病とその予防・対応などの保健対応に必要な基礎的な事項を学びます。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2 健康の概念と健康指標 3 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 4 地域における保健活動と児童虐待防止 5 身体発育及び運動機能の発育と保健 6 生理機能の発育と保健 7 健康状態の観察および心身の不調等の早期発見 8 発育・発達の把握と健康診断 9 保護者との情報共有 10 主な疾病の特徴 11 子どもの疾病の予防と適切な対応 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑩ 子どもの保健』（中央法規出版）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	保育内容総論	担 当 教 員	緒方 恵子		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	1 年次	単 位	1
授業目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2 保育所保育指針の各章の繋がりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景変遷等を踏まえ保育の内余の基本的な考え方、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・考察・評価・改善）に繋げて理解する。 4 保育の多様な展開について具体的に理解する。 授業内容の計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所保育指針に基づく保育の全体構造 2 保育の全体構造と保育内容①養護にかかわる内容 3 保育の全体構造と保育内容②教育にかかわる内容 4 保育内容の歴史的変遷と社会的背景 5 子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方 6 養護と教育が一体的に展開される保育 7 子どもの主体性を尊重する保育 8 環境を通して行う保育 9 生活や遊びによる総合的な保育 10 個と集団の発達をふまえた保育 11 家庭や地域等との連携をふまえた保育 12 小学校等との連携・接続をふまえた保育 13 長時間の保育 14 特別な配慮を要する子どもの保育 15 多文化共生の保育 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		面接授業（スクーリング）時間数 15 時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑭ 保育内容総論』（中央法規出版） 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社） 『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（フレーベル館）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	保育内容の理解と方法 I (音楽・図画工作・体育)	担 当 教 員	新井 久・石橋 敦子 中山 やよい		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	1 年次	単 位	2
授業目標 保育の内容を理解するために必要な知識や技能の習得を目標とします。音楽・造形・運動遊びに関する基本的な知識や技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能の習得を目標とします。 幼児期における身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、身体能力や運動機能を高め、心身ともに健康なからだをつくり、育てる運動あそびについての知識・技能の習得を目指します。						
授業計画の内容 1 音楽に関する基本的な知識や技能 2 楽譜を読むために必要な基本的な知識 (音楽理論) 3 演奏するために必要な器楽に関する知識や技能 4 保育実践において必要なピアノの演奏技能 5 保育実践において必要な弾き歌いの演奏技能 6 造形に関する基本的な知識や技能 7 造形活動を行う上で必要な材料や道具などに関する基本的な知識 8 描画活動に関する知識や技能 9 乳幼児の発育・発達についての基本的な知識の習得 10 現代社会における乳幼児の環境と生活構造についての知識の習得 11 乳幼児の運動遊びについての意義と重要性・指導上の留意点についての基本的知識の習得 12 保育における運動あそびについての知識や技能の習得① (大型用具) 13 運動指導計画についての知識や技能の習得①						
単位認定の方法 及び基準・時間数		面接授業 (スクーリング) 時間数 15 時間 印刷教材による自宅学習時間数 45 時間 レポート [100%] 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		面接授業時、担当者より資料を配布 (音楽対象) 『指づかいつきバイエル・ピアノ教本』 (全音楽譜出版社) バイエルを既にお持ちの方はそのバイエルで可。また他の出版社のものでも可。 『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』 (教育芸術社) 『新版 和音伴奏による幼児のうた 100 曲 <第2版>』 (全音楽譜出版社) 『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力 豊かな保育者へ (第3版)』 (萌文書林) (体育対象) 『すこやかな子どもの心と体を育む「改訂 運動遊び」』 (建帛社)				
参 考 書		『造形表現・図画工作 第2版』 (建帛社) (図画工作対象) 『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』 (教育情報出版) (図画工作対象) 『運動遊び・表現あそび (指導法を身につける理論と事例)』 (大学図書出版) (体育対象)				

必修 科目	授 業 目 名	乳児保育Ⅱ	担 当 教 員	中山 有理		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	1 年次	単 位	1
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 上記 1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 <p>※「乳児保育」とは、3 歳未満児を念頭においた保育を示す。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 乳児保育の基本 <ol style="list-style-type: none"> 子どもと保育士等との関係の重要性 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり 子どもの主体性の尊重と自己の育ち 子どもの体験と学びの芽生え 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 <ol style="list-style-type: none"> 子どもの 1 日の生活の流れと保育の環境 子どもの生活や遊びを支える環境の構成 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 子ども同士の関わりとその援助の実際 乳児保育における配慮の実際 <ol style="list-style-type: none"> 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 集団での生活における配慮 環境の変化や移行に対する配慮 乳児保育における計画の実際 <ol style="list-style-type: none"> 長期的な指導計画と短期的な指導計画 個別的な指導計画と集団の個別計画 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		面接授業（スクーリング） 15 時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑮ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ』（中央法規出版） 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社） 『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（フレーベル館）				
参 考 書		乳児保育—子どもの豊かな育ちを求めて—（萌文書林）				

必修 科目	授 業 目 名	子どもの健康と安全	担 当 教 員	川崎 詔子		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	1年次	単位	1
<p>授業目標</p> <p>保育の場における子どもの健康や安全を守り、よって健やかな成長を促すための専門性を 実技や演習で学ぶ。</p> <p>保育における衛生管理・事故防止を具体的に理解する。 子どもの体調不良等についての適切な対応について具体的に理解する。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育における健康観察と体調不良の発見 バイタルサイン測定 2 体調不良や障がいが発生した場合の対応 吐物処理の方法 3 子どもの事故防止および安全対策 保育室の環境を考える グループワーク 4 3歳児未満への対応 乳幼児身体発育曲線で考える。 5 第一次救命 応急手当 AED 窒息時の対応 6 保育における衛生管理 手洗い 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		面接授業（スクーリング） 15時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑩ 子どもの健康と安全』（中央法規出版）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	保育所実習 I	担 当 教 員	小保方 敬子・平林 大佑 山口 知枝実 他		
	授 業 方 法	実 習	開講期・年次	1 年次	単 位	2
授業目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や子どものかかわりを通して子どもの理解を深める。 3 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 保育所実習の内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針の理解に基づく保育の展開 2 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり 3 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4 保育の計画、観察、記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		実習日数及び時間 10 日間かつ 80 時間 実習園及び担当教員の総合評価 [100%] 評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。				
実 習 先 での 学 習 について		実習園に訪問してオリエンテーションを受ける。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ② 保育実習』（中央法規出版） 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども 園教育・保育要領〈原本〉』（チャイルド本社） 『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（フレーベル館）				
参 考 書		『実習に役立つ保育技術』（創成社） 『保育指導案大百科事典』（一藝社） 『実習日誌の書き方-幼稚園・保育所・施設実習完全対応』（一藝社）				

必修 科目	授 業 目 名	保育実習指導 I (1)	担 当 教 員	小保方 敬子・平林 大佑 山口 知枝実 他		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	1 年次	単 位	1
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義・目的を理解する。 2 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の目的 (2) 実習の概要 2 実習の内容と課題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の内容 (2) 実習の課題 3 実習に際しての留意事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (2) プライバシーの保護と守秘義務 (3) 実習生としての心構え 4 実習の計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習における計画と実践 (2) 実習における観察、記録及び評価 5 事後指導における実習の総括と課題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間 45 時間 事前事後指導としてスクーリング必修 レポート [100%] 事前課題レポートを提出日までに必提出 ※事前スクーリングの出席、レポートの提出がない場合、実習配属はできません。 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑩ 保育実習』（中央法規出版） 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども 園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社） 『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（フレーベル館）				
参 考 書		『実習に役立つ保育技術』（創成社） 『保育指導案大百科事典』（一藝社） 『実習日誌の書き方-幼稚園・保育所・施設実習完全対応』（一藝社）				

選択科目	授 業 目 名	高 齢 者 福 祉	担 当 教 員	古 谷 泰 啓		
	授 業 方 法	講 義	開 講 期 ・ 年 次	前 期 ・ 1 年 次	単 位	2
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 2 高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 3 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 4 高齢者における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の定義と特性 2 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境 3 高齢者福祉の歴史 4 高齢者に対する法制度 5 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 6 高齢者と家族等に対する支援の実際 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座2 高齢者福祉』（中央法規出版）				
参 考 書						

選択科目	授 業 目 名	貧困に対する支援	担 当 教 員	古谷 泰啓		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	後期・1年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。 2 貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。 3 貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。 4 貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 貧困の概念 2 貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 3 貧困の歴史 4 貧困に対する法制度 5 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 6 貧困に対する支援の実際 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援』（中央法規出版）				
参 考 書						

選択科目	授 業 目 名	社会保障	担 当 教 員	堀川 茂野		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前後期・1年次	単 位	4
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 めまぐるしく変化する現代社会の実態を理解し、生活者としての国民が抱える問題に関心を持つ。 2 社会保障の基本的な考え方や、歴史的な成り立ちが理解できる。 3 社会保障制度を財政の側面からとらえ、社会保障制度全体でみた収入と支出が理解できる。 4 社会保険と社会扶助を対比させ、それぞれの特徴、長所・短所、課題について理解できる。 5 社会保障の各制度の概要が説明できる。ソーシャルワーカーとして基本的な仕組みと考え方が理解できる。 6 グローバル化している世界にあつて、国際社会における政治・経済の動きに関心を持つ。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と社会保障 2 社会保障の概念や対象及びその理念 3 社会保障の財源 4 社会保険・社会扶助・民間保険の関係 5 社会保障制度の体系（医療保険制度・介護保険制度） 6 社会保障制度の体系（年金保険制度・生活保護制度・社会手当制度） 7 社会保障制度の体系（労災保険制度・雇用保険制度・社会福祉制度） 8 諸外国における社会保障制度 						
単位認定の方法及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 180 時間 レポート1 [100%] レポート2[100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座7 社会保障』（中央法規出版）				
参 考 書						

選 択 科 目	授 業 目 名	権利擁護を支える 法制度	担 当 教 員	林 直子		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・1年次	単 位	2
<p>授業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 権利擁護を支える法の基礎（日本国憲法、民法・行政法の基礎）を理解する。 2 権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 3 権利擁護で直面する法的諸問題について理解する。 4 権利擁護にかかわる組織・専門職について理解する。 5 成年後見制度について理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法律の基礎知識、裁判制度、日本国憲法・民法・行政法の基礎 2 権利擁護の意義 3 虐待・暴力防止関係法、障害者差別解消法の概要 4 意思決定支援とは、意思決定支援ガイドライン、インフォームド・コンセント 5 権利擁護にかかわる組織、団体、専門職 6 成年後見制度 						
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度』（中央法規出版）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	教育原理	担 当 教 員	金 蘭 実		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	中期・2年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 2 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3 教育の制度について理解する。 4 教育実践の様々な取り組みについて理解する。 5 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育の意義 2 教育の目的 3 乳幼児期の教育の特性 4 教育と子ども家庭福祉の関連性 5 人間形成と家庭・地域・社会等との関連性 6 諸外国の教育の思想と歴史 7 日本の教育の思想と歴史 8 子ども観と教育観の変遷 9 教育制度の基礎 10 教育法規・教育行政の基礎 11 諸外国の教育制度 12 教育の実践 13 教育実践の基礎理論（内容・方法・計画と評価） 14 教育実践の多様な取り組み 15 生涯学習社会と教育 16 現代の教育課題 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ② 教育原理』（中央法規出版）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	社会的養護 I	担 当 教 員	村江 昇		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	中期・2年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4 社会的養護の対象や形態、関係する専門職などについて理解する。 5 社会的養護の現状と課題について理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護の理念と概念 2 社会的養護の歴史的変遷 3 子どもの人権擁護と社会的養護 4 社会的養護の基本原則 5 社会的養護における保育士等の倫理と責務 6 社会的養護の制度と法体系 7 社会的養護のしくみと実施体系 8 社会的養護とファミリーソーシャルワーク 9 社会的養護の対象と支援のあり方 10 家庭養護と施設養護 11 社会的養護に関わる専門職 12 社会的養護に関する社会的状況 13 施設等の管理運営の現状と課題 14 被措置児童等の虐待防止の現状と課題 15 社会的養護と地域福祉の現状と課題 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑥ 社会的養護 I 第2版』（中央法規出版）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	保育者論	担 当 教 員	平林 大佑*		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・2年次	単位	2
<p>実務経験のある教員等による科目</p> <p>保育の現場経験を基に、保育の資質や能力の向上に向けた取り組みや職員間との連携の重要性を様々な視点から授業を展開していく</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育者の役割と倫理について理解する。 2 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3 保育士の専門性について考察し、理解する。 4 保育者の連携・協働について理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育者の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 役割・職務内容 (2) 倫理 2 保育士の制度的位置付け <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉法における保育士の定義 (2) 資格・要件 (3) 欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等 3 保育士の専門性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の資質・能力 (2) 養護及び教育の一体的展開 (3) 家庭との連携と保護者に対する支援 (4) 計画に基づく保育の実践と省察・評価 (5) 保育の質の向上 4 保育者の連携・協働 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育における職員間の連携・協働 (2) 専門職間及び専門機関との連携・協働 (3) 地域における自治体や関係機関等との連携・協働 5 保育者の資質向上とキャリア形成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 資質向上に関する組織的取組 (2) 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義 (3) 組織とリーダーシップ 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑦ 保育者論』（中央法規出版）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	子ども家庭支援の 心理学	担 当 教 員	小川 万希子		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・2年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4 子どもの精神保健とその課題について理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳児期の発達 2 幼児期の発達 3 学童期の発達 4 青年期の発達 5 成人期・中年期の発達 6 高齢期の発達 7 家族・家庭の意義と機能 8 家族関係・親子関係の理解 9 子育ての経験と親としての育ち 10 子育てを取り巻く社会的状況 11 ライフコースと仕事・子育て 12 多様な家庭とその理解 13 特別な配慮を要する家庭 14 子どもの生活・生育環境とその影響 15 子どものこころの健康にかかわる問題 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑨ 子ども家庭支援の心理学』（中央法規出版）				
参 考 書		『子どもの障害をどう受容するか 家族支援と援助者の役割』（大月書店） 『子どものための精神医学』（医学書院）				

必修 科目	授 業 目 名	子どもの食と栄養	担 当 教 員	隅 淳子		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	2 年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎となる。この時期の栄養や食事内容は小児の健康や身体の発達、発育、精神の発達、情緒の安定に大きく影響する。</p> <p>保育者として、栄養に関する知識を学び、実習を通じて習得することを目標とする。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの健康と食生活の意義 2 食育に関する国の施策 3 栄養の基礎知識 4 乳児期の栄養と食生活 5 幼児期・学童期・思春期の食生活 6 食育の意義・食育計画 7 調理実習① 8 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 9 食物アレルギー・食中毒について 10 確認テスト 11 調理実習② 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 45 時間 面接授業（スクーリング）時間数 15 時間 レポート [100%] 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑫ 子どもの食と栄養』（中央法規出版）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	保育内容演習 I (健康)	担 当 教 員	中山 やよい		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	中期・2年次	単位	1
<p>授業目標</p> <p>指定教科書を熟読し、社会の夜型化やメディア機器の使用による影響など生活環境の変化に伴う現代的課題を理解し、子どもたちが心身ともに健康に生きていく力を身につけていくために、保育者の果たす役割について学び、子どもたちの心身の発達を考えた保育・教育内容の精選ができる力を身につける。</p> <p>幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿を常に考えながら、保育・教育活動を展開できる指導力を養う。</p> <p>授業内容の計画</p> <p>1 幼児教育の基本</p> <p>(1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼児教育の捉え方とは</p> <p>(2) これからの0～2歳児の保育 (3) 幼児教育の目的と領域 (4) 環境を通しての教育</p> <p>(5) 幼児教育基本 (6) 保育者のさまざまな役割 (7) 領域「健康」と他の領域との関係</p> <p>2 子どもの育ちと領域「健康」</p> <p>(1) 乳幼児期を通しての運動能力の発達 (2) 情緒の安定 (3) 生活習慣の形成</p> <p>(4) 子どもの発達と事故</p> <p>3 子どもの「健康」をめぐる現状と課題</p> <p>(1) 最近の子どもたち (2) 運動能力調査に見る子どもの心身の変化</p> <p>(3) 「健康」を支える集団保育の役割</p> <p>4 子どもの健康と遊び</p> <p>(1) 乳児・1～2歳児の遊び (2) ルールのある遊び (3) 遊具を使った遊び</p> <p>(4) さまざまな遊び (5) 子どもの興味を引き出す環境の構成</p> <p>5 園生活と生活習慣</p> <p>(1) 園生活の中で育む生活習慣 (2) 園生活と食 (3) 園生活と睡眠</p> <p>(4) 園環境と当番活動 (5) 生活習慣を育む保育者の役割 (6) 生活習慣と家庭との連携</p> <p>6 子どもの健康と安全教育</p> <p>(1) 安全教育の考え方 (2) 遊びのなかで育む安全の意識</p> <p>(3) 計画的な指導によって育む安全の意識 (4) 事故が起きた場合の対応</p> <p>7 幼児教育の現代的課題と領域「健康」</p> <p>(1) 「健康」の現代社会における今日的課題 (2) 「健康」と保育者の役割</p> <p>(3) 生涯発達のなかで「健康」に関する学びを捉える</p>						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 45時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉健康』 (萌文書林)				
参 考 書		『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領〈原本〉』 『保育所保育指針解説 (H30年3月)』 (フレーベル館)				

必修 科目	授 業 目 名	保育内容演習 I (環境)	担 当 教 員	白川 晴美		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	中期・2年次	単 位	1
<p>授業目標</p> <p>保育園の生活は人的環境、物的環境、自然環境、社会的環境で構成されています。保育者が構成する環境は、子どもの発達に大きな影響があります。また、日々の生活の中から子どもと共に織りなしていくことも大切です。子どもたちが主体的に生きる力を育てる為に、どんな環境が必要であるか学習を行います。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 授業計画と評価について 2 幼児教育の基本 第1章 3 乳幼児の育ちと領域「環境」 第2章 4 乳児1～2歳児の世界と環境 第3章 5 乳児にふさわしい環境について 演習 6 自然に親しみ、植物や生き物に触れる 第4章 7 ものや道具に関わって遊ぶ 第5章 8 文字や標識、数量や図形に関心を持つ 第6章 9 遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ 第7章 10 幼児の思考力の芽生え 第8章 11 現在の保育の課題と領域「環境」 第11章 12 室内環境を考えてみよう 13 園庭環境を考えてみよう 14 異年齢保育の環境について 15 環境としての保育者の役割 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 45時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新訂 事例で学ぶ保育内容 〈領域〉環境』(萌文書林)				
参 考 書		『保育所保育指針解説 平成30年3月』(フレーベル館)				
担当者からの メッセージ		子どもたちを取り巻く状況の中で、どのような環境が必要なのでしょう か。環境が子どもたちの育ちに大きな影響を与えていきます。子どもの 主体性を育む環境について、学びを深めていきましょう。				

必修 科目	授 業 目 名	保育内容演習 I (言葉)	担 当 教 員	白川 晴美		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	後期・2年次	単 位	1
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所保育指針における「言葉」の領域において学びを深める。 2 乳幼児とことばの関係を学び、保育士としてどのように乳幼児の豊かな育ちを育成するべきかを習得する。 3 総合的に指導、援助が行えるように実践的な力を習得する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児教育の基本 2 幼児期の発達と領域「言葉」 3 多様な感情体験とことば 4 信頼関係から生み出されることば 5 自分の考えや思いを伝えることば 6 「いま、ここ」を越えて広がる世界とことば 7 ごっこあそびとことば 8 幼児教育の現代的課題と領域「言葉」 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 45 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉言葉』 (萌文書林)				
参 考 書		『保育・教育ネオシリーズ 20 保育内容・言葉 第3版』 (同文書院)				

必修 科目	授 科 目 名	保育内容の理解と方法Ⅱ (音楽・図画工作・体育)	担 当 教 員	新井 久・石橋 敦子 中山 やよい		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	2年次	単位	2
授業目標 保育内容の理解と方法Ⅰに引き続き、保育の内容を理解するために必要な知識や技能の習得を目標とする。音楽及び造形に関する基本的な知識や技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能の習得を目標とする。 子どもの発達を理解し運動あそびについて考え、遊びによってどのように育ち、思考力や判断力などを獲得させていくための「あそびを工夫する」ことや実践指導を体験し、運動あそびを教材化できる知識や技能の習得を目標とする。						
授業内容の計画 1 音楽に関する基本的な知識や技能 (1) 保育現場での実践的弾き歌いの知識や技能の習得 (2) 合奏楽器の知識とその使い方、合奏指導法を習得 (3) リトミックの実践的内容 (4) 子どもに合わせたピアノ伴奏法など保育実践において必要な知識と技能の習得 2 造形に関する基本的な知識や技能 (1) 様々な造形に活動を通しての楽しさや喜びの経験 (2) 工作や彫塑などにおいて必要な知識や技能 (3) 子どもの造形表現の発達や特性に関する知識の習得 3 体育に関する基本的な知識や技能 (1) 保育における運動あそびについての知識や技能の習得② (小型用具) (2) 保育における運動あそびについての知識や技能の習得③ (素材遊び) (3) 保育における運動あそびについての知識や技能の習得④ (模擬授業) (4) 運動指導計画についての知識や技能の習得① (5) 乳幼児の安全教育についての基本的知識の習得						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 45時間 面接授業(スクーリング)時間数 15時間 レポート [100%] 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		面接授業時、担当者より資料を配布 (音楽対象) 『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』(教育芸術社) 『新版 和音伴奏による幼児のうた100曲<第2版>』(全音楽譜出版社) 『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ<第3版>』(萌文書林) (体育対象) 『すこやかな子どもの心と体を育む「改訂 運動遊び」』(建帛社)				
参 考 書		(音楽対象)『一人一人を大切にする ユニバーサルデザインの音楽表現 第2版』(萌文書林) 『たのしい楽器遊び合奏の本』(YAMAHA)『年齢別2～5歳児 合奏楽譜百科』(ひかりのくに) 『造形表現・図画工作 第2版』(建帛社)(図画工作対象) 『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』(教育情報出版)(図画工作対象) 『運動あそび・表現あそび (指導方法を身につける理論と実例)』(大学図書出版)(体育対象)				

必修科目	授 業 目 名	乳児保育 I	担 当 教 員	中山 有理		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・2年次	単位	2
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 <p>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 2 乳児保育の役割と機能 3 乳児保育における養護及び教育 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 5 保育所における乳児保育 6 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育 7 家庭的保育等における乳児保育 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 9 3歳未満児の生活と環境 10 3歳未満児の遊びと環境 11 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 13 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 14 乳児保育における計画・記録・評価とその意義 15 乳児保育における連携・協働 16 職員間の連携・協働 17 保護者との連携・協働 18 自治体や地域の関係機関等との連携・協働 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑮ 乳児保育 I・II』（中央法規出版）				
参 考 書		『乳児保育』—子どもの豊かな育ちを求めて—（萌文書林）				

必修 科目	授 科 目 名	障害児保育	担 当 教 員	村江 昇		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	2 年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。 2 個々の特性や子どもの発達に応じた援助の方法、環境構成について学ぶ。 3 障がいのある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりの中で育ち合う保育実践について理解を深める。 4 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5 障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「障がい」の概念と障がい児保育の歴史の変遷 2 地域社会への参加・包摂（包容）及び合理的配慮の理解 3 肢体不自由児の理解と援助 4 知的障がい児の理解と援助 5 視覚・聴覚・言語障がい児の理解と援助 6 発達障がい児の理解と援助 7 重症心身障がい児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助 8 指導計画および個別の支援計画の作成 9 発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い 10 障がい児保育における子どもの健康と安全 11 職員間の連携・協働 12 保護者に対する理解および保護者間の交流や支えあいの意義と支援 13 地域の専門機関との連携 14 小学校との連携 15 福祉・教育における現状と課題 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間 45 時間 面接授業（スクーリング）時間数 15 時間 レポート [100%] 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑰ 障害児保育』（中央法規出版） 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社） 『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（フレーベル館）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	社会的養護Ⅱ	担 当 教 員	村江 昇		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	2年次	単位	1
<p>授業目標</p> <p>児童虐待が社会問題となり、その防止に国を挙げ取り組んでいるところですが、一層深刻の度を増しています。それに伴って、児童福祉施設や里親など社会的養護のもとで生活する子どもが増えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際や相談援助の方法・技術について理解する。 4 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 <p>授業内容の計画</p> <p>面接授業内で、下記の語群からテーマを抽出して理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの権利擁護について 2 社会的養護における子どもの理解 3 社会的養護における日常生活支援 4 社会的養護における心理的支援 5 社会的養護における自立支援 6 施設養護の生活特性および実際：乳児院等 7 施設養護の生活特性および実際：障害児施設等 8 家庭養護の生活特性および実際 9 アセスメントと個別支援計画の作成 10 記録および自己評価 11 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践 12 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 13 社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用） 14 社会的養護における家庭支援 15 今後の社会的養護の課題と展望 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		面接授業（スクーリング）時間数 15時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑱ 社会的養護Ⅱ』（中央法規出版）				
参 考 書		新聞などの資料をプリントして配布				

必修 科目	授 業 目 名	施設実習 I	担 当 教 員	小保方 敬子 平林 大佑 他		
	授 業 方 法	実 習	開講期・年次	2 年次	単 位	2
<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や子どものかかわりを通して子どもの理解を深める。 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 <p>施設実習の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 施設の役割と機能 2 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助やかかわり 3 施設における子どもの生活と環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応 (3) 子どもの活動と生活の環境 (4) 健康管理、安全対策の理解 4 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		実習日数及び時間 10 日間かつ 80 時間 実習先及び担当教員の総合評価 [100%] 評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。				
実 習 先 での 学 習 について		実習施設に訪問してオリエンテーションを受ける。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ② 保育実習』（中央法規出版） 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども 園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社） 『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（フレーベル館）				
参 考 書		『新保育士養成カリキュラム 保育士を目指す人の福祉施設実習』（みらい） 『福祉施設実習ハンドブック』（みらい） 『実習日誌の書き方-幼稚園・保育所・施設実習完全対応』（一藝社）				

必修 科目	授 業 目 名	保育実習指導 I (2)	担 当 教 員	小保方 敬子 平林 大佑 他		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	2 年次	単 位	1
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義・目的を理解する。 2 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の目的 (2) 実習の概要 2 実習の内容と課題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の内容 (2) 実習の課題（書類の下書き提出及び講師の添削）（実習オリエンテーションの参加） 3 実習に際しての留意事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (2) プライバシーの保護と守秘義務 (3) 実習生としての心構え 4 実習の計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習における計画と実践 (2) 実習における観察、記録及び評価 5 事後指導における実習の総括と課題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間 45 時間 事前事後指導としてスクーリング必修 レポート[100%]事前課題レポートを提出日までに必提出 ※事前スクーリングの出席、レポートの提出がない場合、実習配属はできません。 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ② 保育実習』（中央法規出版） 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』（チャイルド本社） 『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（フレーベル館）				
参 考 書		『新保育士養成カリキュラム 保育士を目指す人の福祉施設実習』（みらい） 『福祉施設実習ハンドブック』（みらい） 『実習日誌の書き方-幼稚園・保育所・施設実習完全対応』（一藝社）				

必修 科目	授 業 目 名	保育実践演習 (2)	担 当 教 員	新 井 久		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	後期・2年次	単 位	1
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 必須科目及び選択必修科目、保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識技能を取得したことを確認する。 2 年齢に応じた合奏楽器の選び方、演奏方法とそのメンテナンス、合奏譜の読み方、合奏の指導案、合奏の指導法について学ぶ。 3 リトミックと年齢別リトミックについて学ぶ。 <p>授業内容の計画</p> <p>「保育実践演習」は、保育に関わる課題の中から分析、検討を行うと共に、その課題の技術、方法について習得することを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 合奏楽器について いろいろな楽器やリズムに親しむ <ol style="list-style-type: none"> (1) いろいろな楽器を知ろう (2) 子どもと楽しむ打楽器～楽器の特徴と奏法～ (3) 年齢に応じた合奏楽器 2 合奏指導法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 合奏譜の読み方 (2) 合奏指導法と指導案について 3 リトミック <p>子どもの音楽的表現活動 年齢ごとの音楽遊びの実践</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 0～3歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの指導計画実例 (2) 4、5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの指導計画実例 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 45 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 『新版 和音伴奏による幼児のうた 100 曲 第2版』（全音楽譜出版社） 『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力 豊かな保育者へ 第3版』（萌文書林）				
参 考 書		『一人一人を大切に作る ユニバーサルデザインの音楽表現 第2版』（萌文書林）				

選択科目	授 業 目 名	保健医療と福祉	担 当 教 員	元根 正晴		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・2年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>保健医療と福祉は、ソーシャルワーカーとしての業務に必要な保健医療の知識を習得する科目です。少子・高齢化が進み、人口減少が始まっている日本では、人口の自然増加が見込めない状態にあります。</p> <p>この中において日本では従来の国民皆保険制度・老人医療無料化に基づく均一・安価な医療を国が担保する医療制度から、受益者負担の原則に則った公的介護保険導入や老人医療費個人負担増加へと歴史的な変動を遂げてきています。</p> <p>ソーシャルワーカーの提供する援助は、生活支援であります。医学・保健医療と福祉の選択肢は多種・多様化してきており、医師などの提供する医療行為と密接に関連しつつ支援を行う必要があります。その意味でチーム医療の一環として、保健医療と福祉の知識を持ち対応することが重要です。ソーシャルワーカーの業務遂行にとって、保健医療と福祉の科目修得は必要不可欠ということを念頭において学習を進めてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。 2 保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。 3 保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する。 4 保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保健医療の動向 2 保健医療に係る政策・制度・サービスの概要 3 保健医療に係る倫理 4 保健医療領域における専門職の役割と連携 5 保健医療領域における支援の実際 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 5 保健医療と福祉』（中央法規出版）				
参 考 書		『改訂 介護職・福祉職のための医学用語辞典』（中央法規出版）				

選 択 科 目	授 業 目 名	福祉サービスの 組織と経営	担 当 教 員	西川 孝		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・2年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について理解する。 2 社会福祉士に求められる福祉サービスの組織と沿革、経営の視点と方法を理解する。 3 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等について理解する。 4 福祉サービスに求められる福祉人材のマネジメントについて理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 福祉サービスを提供する組織 (2) 福祉サービスの沿革と概況 (3) 組織間連携と促進 2 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 組織運営に関する基礎理論 (2) 集団の力学に関する基礎理論 (3) リーダーシップに関する基礎理論 3 福祉サービス提供・組織の経営と実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 経営体制 (2) 福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス (3) 適切な福祉サービスの管理 (4) 情報管理 (5) 会計管理と財務管理 4 福祉人材のマネジメント <ol style="list-style-type: none"> (1) 福祉人材の育成 (2) 福祉人材マネジメント (3) 働きやすい労働環境の整備 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・社会福祉士養成講座1 福祉サービスの組織と経営』 (中央法規出版)				
参 考 書						

選択科目	授 業 目 名	刑事司法と福祉	担 当 教 員	久保 隆志		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	後期・2年次	単 位	1
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 2 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。 3 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境 2 刑事司法 3 少年司法 4 更生保護制度 5 医療観察制度 6 犯罪被害者支援 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 45 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 10 刑事司法と福祉』 (中央法規出版)				
参 考 書		『更生保護入門 第6版』松本 勝編著 (成文堂 2022年3月)				

必修 科目	授 業 目 名	保育の計画と評価	担 当 教 員	平林 大佑*		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・3年次	単位	2
<p>実務経験のある教員等による科目</p> <p>保育の現場経験を基に、全体的な計画と指導計画の関係性を伝えると共に、その計画がどのように保育に反映されているかを具体的に授業展開していく</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育の計画と評価の基本 <ol style="list-style-type: none"> (1) カリキュラムの基礎理論 (2) 保育における計画と評価の意義 (3) 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の循環による保育の質の向上 2 保育所における保育の計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景 (2) 保育所保育指針における保育の目標と計画の基本的考え方 (3) 全体的な計画と指導計画の関係性 (4) 全体的な計画の作成 (5) 指導計画（長期的・短期的）の作成 (6) 指導計画作成上の留意事項 (7) 計画に基づく保育の柔軟な展開 3 保育所における保育の評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の記録及び省察 (2) 保育士及び保育所の自己評価 (3) 保育の質向上に向けた改善の取組 (4) 生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑬ 教育・保育カリキュラム論』（中央法規出版） 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社） 『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（フレーベル館）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 科 目 名	保育内容演習 I (人間関係)	担 当 教 員	緒方 恵子		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	3 年次	単 位	1
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「保育内容」とは、保育所において保育の目標を達成するために展開されるすべての内容を意味するものであることを理解する。 2 領域別（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の教科の学びと共に、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。 3 保育士として、発達過程に即して子どもを理解することと、総合的に指導・援助が行えるように実践的な力を習得する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育内容「人間関係」における幼児教育の捉え方とは 2 幼児教育の根幹として、保育内容「人間関係」がもつ意味 3 乳幼児期の保育における「視点」と「人間関係」 4 保育内容「人間関係」のねらいと内容の考え方 5 保育内容「人間関係」からの「環境を通しての教育」 6 乳幼児期の発達と保育内容「人間関係」 7 信頼関係の基盤と自己と他者の関わり 8 子どもと保育者の関わり的重要性 9 子どもの人間関係の広がりを考える 10 子どもの自己主張を支え自立心の育ちへ 11 子どもの遊びの発達と人間関係 12 個と集団の関係について 13 環境に関わって育まれる協同性 14 乳幼児期の人間関係の力の育ちを見る視点 15 現代の保育の課題と保育内容「人間関係」 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		面接授業（スクーリング） 15 時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉人間関係』（萌文書林） 『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（フレーベル館）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	保育内容演習 I (表現) [音楽]	担 当 教 員	新井 久		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	3 年次	単位	1※
<p>※単位数は保育内容演習 I (表現) [音楽]・[図画工作]・[体育] を合わせて1単位とする。</p> <p>授業内容</p> <p>1 年次、2 年次での学習を踏まえて、保育の領域に関して保育内容の研究を深めていく。 保育現場の実践的応用など、総合的な実技授業をする。</p> <p>2 年目に引き続き、ピアノの技術能力が個人の目標に達成することが、最終課題である。 また資格取得年次のため、卒業実技試験を実施する。各自 3 年間で習得内容や努力なども評価とする。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育内容表現「音楽」に関する総合的な知識と技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 弾き歌いの技能の必要性 (2) 単位修得実技試験の実施 2 保育者の表現能力 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもに合わせたピアノ伴奏法 (2) コードを使ったピアノ伴奏法 3 保育者の実技能力の重要性 <ol style="list-style-type: none"> (1) こどもの歌唱指導における伴奏の重要性 (2) 移調など、歌唱指導に必要な楽典知識の習得 (3) コードの習得 <p>学校（音楽室）で練習できます。また、実技に不安のある方は個別指導を行います。 (事前予約が必要です。)</p>						
単位認定の方法 及び基準・時間数		<p>面接授業（スクーリング）による時間数 5 時間 面接授業試験（実技試験）[100%] 実技試験は各自選曲した 10 曲中、当日指定 3 曲を弾き歌う。なお、合否は以下 ①～③を踏まえ、保育士試験の実技試験レベルに合わせた判定とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①前奏を付け、止まらない、弾き直さないこと ②歌は聞こえるようにしっかり歌うこと ③子どもがいる想定を忘れずに保育士の立場で引き歌うこと <p>評価は秀優良可の 4 段階とし、60 点以上を合格点とする。 ※但し、音楽・図画工作・体育との総合評価とする。</p>				
教 科 書		<p>『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 『新版 和音伴奏による幼児のうた 100 曲 第 2 版』（全音楽譜出版社） 『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力 豊かな保育者へ（第 2 版）』（萌文書林）</p>				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	保育内容演習 I (表現) 〔図画工作〕	担 当 教 員	石橋 敦子		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	3 年次	単 位	1※
<p>※単位数は保育内容演習 I (表現)〔音楽〕・〔図画工作〕・〔体育〕を合わせて1単位とする。</p> <p>授業目標</p> <p>5 領域のうち表現の観点から子どもの発達をとらえ、理解を深めながら保育内容について実践的に学ぶ。子どもの豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにする保育を展開していく為の知識・技能・判断力を習得する。</p> <p>授業内容の計画</p> <p>1 技法あそびのための基礎知識</p> <p>(1) 材料用具のそろえ方</p> <p>(2) 環境構成</p> <p>(3) かかわりかた</p> <p>(4) かたづけ</p> <p>(5) 保護者との連携</p> <p>(6) 技法あそびの展開</p> <p>2 技法あそび基本と実践</p> <p>(1) 絵の具の技法あそび</p> <p>(2) パス・コンテの技法あそび</p> <p>(3) ペンの技法あそび</p> <p>(4) 版画</p> <p>(5) コラージュ</p>						
単位認定の方法 及び基準・時間数		面接授業（スクーリング）による時間数 5時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。 ※但し、音楽・図画工作・体育との総合評価とする。				
教 科 書		適時資料を配付				
参 考 書		『3・4・5歳児の 楽しく絵を描く実践ライブ』（ひかりのくに） 『2・3・4・5歳児の 技法あそび実践ライブ』（ひかりのくに）				

必修 科目	授 業 目 名	保育内容演習 I (表現) 〔体育〕	担 当 教 員	直原 信子		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	3 年次	単 位	1※
<p>※単位数は保育内容演習 I (表現)〔音楽〕・〔図画工作〕・〔体育〕を合わせて1単位とする。</p> <p>授業目標 保育内容表現では、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することをおして、豊かな感性や創造する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指している。 幼児の表現を育むためには、保育者の感性が問われる。幼児がイメージを広げ、表現活動を楽しむためには保育者の援助や環境の構成などが大切になる。 この授業では、 (1) 身体表現などの様々な表現活動をおして表現あそび・環境の構成などについて知識・技能・表現力を身につける。 (2) 伸び伸びと表現する楽しさや、人とのかかわりを楽しむ様な援助ができるための実践力を身につける。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 身体表現とは 2 リズムにのってウォーミングアップ 3 リズムダンス創作・発表・鑑賞…お気に入りの動きをつなげて 4 手あそび・伝承遊びから全身を使った表現あそび 5 表現あそび・・・からだ・動き・かたちであそぶ 6 表現あそび・・・イメージを広げて 7 身近なものを使った表現あそび 8 小っちゃい作品・・・絵本を参考にして 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		面接授業 (スクーリング) による時間数 5 時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。 ※但し、音楽・図画工作・体育との総合評価とする。				
教 科 書		資料を配布				
参 考 書		「身体表現をたのしむあそび作品集」新リズム表現研究会 (かもがわ出版)				

必修 科目	授 業 目 名	子育て支援	担 当 教 員	平林 大佑*		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	3年次	単位	1
<p>実務経験のある教員等による科目</p> <p>保育の現場経験を基に、保護者との信頼関係の築き方から支援の方法まで具体的な事例を踏まえ、授業を展開していく</p> <p>授業目標</p> <p>社会の状況、子どもを取り巻く環境が変化し、子育てに自信がもてず育児不安、育児の悩みをもつ家庭が増加している。学習する中で、保護者との相互理解と信頼関係の形成を大切にし、支援のあり方、保育者としての役割を深める。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育士の行う子育て支援の特性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの保育とともに行う保護者の支援 (2) 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 (3) 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 (4) 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 2 保育士の行う子育て支援の展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子ども及び保護者の状況・状態の把握 (2) 支援の計画と環境の構成 (3) 支援の実践・記録・評価・カンファレンス (4) 職員間の連携・協働 (5) 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職の連携・協働 3 保育士の行う子育て支援とその実際（内容、方法、技術） <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所などにおける支援 (2) 地域の子育て家庭に対する支援 (3) 障害のある子ども及びその家庭に対する支援 (4) 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 (5) 子ども虐待の予防と対応 (6) 要保護児童等の家庭に対する支援 (7) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		面接授業（スクーリング） 15 時間 面接授業評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ⑱ 子育て支援』（中央法規出版）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 名	保育実践演習 (3)	担 当 教 員	新 井 久		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	3 年次	単 位	1
<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 必須科目及び選択必須科目、保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識と技能を取得したことを確認する。 2 保育観や子どもの理解、保育活動や環境の構成、指導、援助のあり方などを学ぶ。 <p>授業内容の計画</p> <p>「保育実践演習」は、保育に関わる課題の中から分析、検討を行うと共に、その課題の技術、方法について習得することを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育士のマナーと保育に対する姿勢についての確認、役割分担とその内容について 2 表現技法の習得と指導法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「生活発表会」を考える (2) 保育行事を考える (3) 合奏指導法と実践 (4) ミュージカル、劇の実践 (5) 合唱とミュージックベル 3 合奏譜に関するアドバイス <ol style="list-style-type: none"> (1) 年齢に応じた楽器の使い方 (2) 年齢に応じた合奏譜の読み方 4 保育実践演習発表会 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		面接授業（スクーリング）15 時間 面接授業評価 [100%] ※面接授業試験を「保育実践演習発表会」とする。 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 『新版 和音伴奏による幼児のうた 100 曲 第2版』（全音楽譜出版社）				
参 考 書		『年齢別 2～5 歳児 合奏楽譜百科』（ひかりのくに） 『ドレミふりがな付 いちばんやさしいミュージックベルの本』（YAMAHA）				

必修 科目	授 業 目 名	障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	担 当 教 員	黒田 将史		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・3年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>本講では、まず障害者福祉の理念や歴史、障害者を取り巻く実状について概観する。その上で、相談援助において必須の知識となる障害者福祉の中心的な法制度の内容・仕組みを学習し、障害者に対する支援の在り方や関わり方について理解を深めることを目標とする。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害者福祉とは 2 障害の概念 3 障害者の生活実態 4 障害者福祉の歴史 5 障害者福祉の理念 6 障害者福祉の法制度体系（身体障害者福祉法） 7 障害者福祉の法制度体系（知的障害者福祉法） 8 障害者福祉の法制度体系（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律） 9 障害者福祉の法制度体系（障害者基本法、発達障害者支援法、医療観察法） 10 障害者における雇用問題（合理的配慮について） 11 障害者自立支援制度① 12 障害者自立支援制度② 13 専門職の役割・多職種連携 14 障害者に対する相談支援① 15 障害者に対する相談支援② 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』 (中央法規出版)				
参 考 書						

選 択 科 目	授 業 目 名	地域福祉の理論と方法	担 当 教 員	村 江 昇		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・3年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>今日、地域福祉は大きな潮流となっており、その中で福祉実践としてどのような活動が出来るかが大きな課題となっている。例えば児童支援の施設における児童を対象とした実践もそういった地域福祉的視点から重要な意義を持っており、親、学校、地域住民を含めた総合的なネットサポートが必要不可欠になってきている。本講義ではそのような視点で理解を深めていきたい。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域福祉の意義と諸問題 2 地域社会について（歴史的観点） 3 地域社会について（類型より） 4 コミュニティの概念と求められるもの 5 外国と日本でのコミュニティ 6 住民主体と参加（福祉 教育を含む） 7 地域諸機関、団体、及び専門職について 8 ニーズと社会資格 9 トータルケアシステムの構築を中心に 10 マネジメントのためのネットワーキングを中心に 11 具体的問題（児童虐待を中心に） 12 具体的問題（高齢者介護を中心に） 13 具体的問題（障がい者問題を中心に） 14 評価と実際 15 今後の展望 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法 第3版』 (中央法規出版)				
参 考 書		『地域福祉の理論と方法 第3版』 (弘文堂)				

選 択 科 目	授 業 目 名	子どもの発達心理学	担 当 教 員	小川 万希子		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・3年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>エリクソンの発達8段階が示す乳児期（0-2歳）、幼児前期（2-4歳）、幼児後期（4-5歳）、学童期（5-12歳）について学習する。</p> <p>人は、生涯を通して変化・成長し続けるものと捉えるなかで、子ども時代の発達段階での心的、社会的、身体的な発達とそのための条件、または発達を阻害する要因や心理的危機について講義形式で教授する。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生涯人間発達論、エリクソンの理論について 2 乳児期の発達課題 3 乳児期の発達に関する諸理論 4 乳児期の発達のな問題とケア 5 幼児前期の発達課題 6 幼児前期の発達に関する諸理論 7 幼児前期の発達のな問題とケア 8 幼児後期の発達課題 9 幼児後期の発達に関する諸理論 10 幼児後期の発達のな問題とケア 11 学童期の発達課題 12 学童期の発達に関する諸理論 13 学童期の発達のな問題とケア 14 思春期以降の発達課題 15 「人生100年時代」の生涯人間発達論 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『生涯人間発達論 第3版』（医学書院）				
参 考 書		『子どものための精神医学』（医学書院）				

選 択 科 目	授 業 目 名	臨床心理学	担 当 教 員	大井 彰之		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・3年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>臨床心理学は、応用心理学の一分野で、複数の考え方から成り立っている学問分野です。この授業では、臨床心理学を構成している様々な理論や技術について学びます。この講義を通して、受講生の皆さんが多様な人間理解を持ち、社会に還元する手助けになることを目指します。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公認心理師のための臨床心理学 2 臨床心理学はどのように役立つか 3 臨床心理学を学び、公認心理師になる 4 臨床心理学の成り立ち 5 実践だけでなく研究も学ぶ 6 心だけでなく身体も社会も大切に 7 安心できる関係を大切にする 8 心の奥深くを探る 9 行動で心の動きをとらえる 10 考え方を变えて気持ちも変える 11 人間関係の中で心をとらえる 12 地域のなかで生活を支える 13 心を構成する社会の物語を理解する 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『臨床心理学概論』下山晴彦 他（ミネルヴァ書房）				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	保育内容演習Ⅱ (表現)〔音楽〕	担 当 教 員	新 井 久		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	中期・3年次	単位	2※
<p>※単位数は保育内容演習Ⅱ (表現)〔音楽〕・〔図画工作〕・〔体育〕を合わせて2単位とする。</p> <p>授業内容</p> <p>乳幼児の表現に関する行為には、表情・身振り・会話・しぐさ等の表現的行為から、身体の動きによる表現・音楽的表現・造形的表現・総合的表現などまで、生活経験と心の動きにより、発達に応じて様々なものがある。ここでは保育内容領域「音楽」についての学習内容を実践的な課題を中心により深く学習する。</p> <p>2年目に引き続き、個人でのピアノ技術能力の向上を課題としたうえで、保育者としての感性を磨き表現能力を養い、実技演奏での表現技術を学ぶ。音楽表現とは何か、表現は保育の中でどのような意味を持つのか、「表現」を育てるとはどういうことなのかを学び、乳幼児のよりよい環境を構築するための保育者の役割を考える。</p> <p>授業内容の計画</p> <p>1 曲集制作</p> <p>(1) 保育の1年を通して月ごとの歌(季節の曲、行事の曲)12曲</p> <p>(2) 初めての曲の歌唱支援のポイントである保育者の具体的な声かけや動きを考え作成する(12枚)</p> <p>(3) 曲の導入で使用する視覚的教材を用意する(12通り)。視覚的教材は、子どもにその歌をイメージさせ、子どもの表現や、歌いたいという気持ちを引き出す。</p> <p>2 曲集練習</p> <p>(1) 作成した曲集は、保育現場での実践曲のため、視覚的教材を用いた導入と併せて内容を練習する。</p> <p>(2) 弾き歌いの歌唱指導が出来る曲か、完成予定で練習継続中の曲をファイルすること(弾けない楽譜はファイルの中に入れない)。</p> <p>(3) 継続した練習の重要性を理解する。</p> <p>学校(音楽室)で練習できます。</p> <p>また、実技に不安のある方は個別指導を行います。(事前予約が必要です。)</p>						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 30時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』(教育芸術社) 『新版 和音伴奏による幼児のうた100曲 第2版』(全音楽譜出版社) 『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ 第2版』(萌文書林)				
参 考 書						

必修 科目	授 業 目 名	保育内容演習Ⅱ (表現) [図画工作]	担 当 教 員	石橋 敦子		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	中期・3年次	単 位	2※
<p>※単位数は保育内容演習Ⅱ (表現) [音楽]・[図画工作]・[体育] を合わせて2単位とする。</p> <p>授業目標</p> <p>乳幼児の表現に関する行為には、表情・身振り・会話・しぐさ等の表現的行為から、身体の動きによる表現・音楽的表現・造形的表現・総合表現等まで、生活経験と心の動きにより発達に応じてさまざまなものである。乳幼児の発達をとらえる一視点としての、豊かな感性と創造性に深く関わる保育内容領域「表現」について学習する基礎講座である。</p> <p>精選された基本的な演習を通して、保育者としての感性を磨き表現能力を養いつつ、幼児の表現の特性を学ぶ。表現とは何か、表現は保育の中でどのような意味を持つのか、表現を育てるとはどういうことなのかを学び、乳幼児のよりよき環境としての保育者の役割を考えていく。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 製作の基本 <ol style="list-style-type: none"> (1) 用具の使い方 (2) 紙製作の基本 (3) 素材の使い方 2 政策の基本技法の活用 <ol style="list-style-type: none"> (1) 描画材の活用 (2) 紙の制作への活用 (3) 素材や技法の適切な組み合わせ 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 30時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		適時資料を配布				
参 考 書		『3・4・5歳児の 楽しく絵を描く実践ライブ』 (ひかりのくに) 『2・3・4・5歳児の 技法あそび実践ライブ』 (ひかりのくに)				

必修 科目	授 業 目 名	保育内容演習Ⅱ (表現)〔体育〕	担 当 教 員	直原 信子		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	中期・3年次	単位	2※
<p>※単位数は保育内容演習Ⅱ（表現）〔音楽〕・〔図画工作〕・〔体育〕を合わせて2単位とする。</p> <p>授業目標</p> <p>子どもたちは、五感で感じ、ことばや絵や制作や音や身体を使って、自分なりに表現しようとしている。そのためには子ども自身が興味や関心を持つような魅力のある環境、感性が揺り動かされるような豊かな環境が必要である。保育者自身が周囲の環境の変化に対応し、子どもの発達や興味・関心のある事象に敏感であることも求められる。</p> <p>この授業では、乳幼児期からの発達をふまえ、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを大切に、豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにすること、また、子どもたちが身体活動を通して表現しているとき、身体の諸感覚を通じて、何を、どのようにとらえたのかを想像できる保育者の育成を目指す。</p> <p>授業内容の計画</p> <p>1 運動遊び指導のための基礎理論</p> <p>(1) 子どものからだと運動の発達特徴</p> <p>(2) 幼児期の運動と教育的意義</p> <p>(3) 運動や表現の基礎となるもの</p> <p>2 表現あそび指導のための基礎理論</p> <p>(1) 子どもの身体表現の意義と特徴</p> <p>(2) 模倣と即興、イメージ</p> <p>(3) リズム遊びが育むもの</p> <p>3 表現遊びの実際</p> <p>(1) 模倣</p> <p>(2) いろいろな動きをしてみよう</p> <p>(3) 体を使ってお話しよう</p> <p>(4) 心が躍るリズムダンス</p> <p>4 行事としての表現</p> <p>(1) 行事として行うことの意味</p> <p>(2) 運動会や発表会の企画と演出</p>						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 30時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『保育表現技術 豊かに育つ・育てる身体表現』（ミネルヴァ書房）				
参 考 書		『子ども・からだ・表現(豊かな保育内容のための理論と演習) 改訂2版』（市村出版）				

選択科目	授 業 目 名	児童文化	担 当 教 員	平林 大佑		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前期・3年次	単 位	1
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童文化とはなにかについて理解する。 2 こどもにとっての遊びについて理解する。 3 児童文化の保育への展開を理解し、実践的な力を取得する。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童文化についての理解 2 こどもにとっての遊びとはなにか・こどもの遊びの変化 3 保育の歴史にみる児童文化 家庭や集団保育における児童文化・児童文化財の活用 子どもの身体発達と連動した玩具（乳児）（幼児） 4 児童文化財の保育への展開（おはなし・絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサート・エプロンシアター・人形遊び・劇遊び） 5 玩具・遊具についての理解・保育の中での遊具の活用 6 伝承遊びについての理解・伝承遊びの保育への展開 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 45 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『演習 児童文化 保育内容としての実践と展開』（萌文書林）				
参 考 書		『児童文化がひらく豊かな保育実践』（保育出版社）				

必修 科目	授 業 目 名	保育内容の理解と方法Ⅲ (音楽)	担 当 教 員	新 井 久		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	中期・3年次	単 位	2
授業内容 授業目標 1年次、2年次での音楽に関する基本的な知識や技能をふまえてより深く音楽理論を学んでいく。 こどもの音楽活動において、中心的な活動である歌唱活動では、常に適切な声域での歌唱活動が実施されなければならない。こどもの声域を学び、こどもの声域に合った楽譜の見極め方と、声域に合った高さに楽譜を移調する技術を習得する。また、コードの理解を深め、コードからアレンジする技術を習得する。						
授業内容の計画 1 音程 (1) 単音程と複音程 (2) 順次進行と跳躍進行 (3) 全音と半音 (4) 視覚的に特徴のある音程 (5) 音程と音響 (6) 音程の種類 (7) 幹音同士の音程の判別 2 音階と調 (1) 長音階 (2) 短音階 (3) 近親調、楽譜上の長調と短調の見分け方、5度圏、いろいろな音階 3 和音とコードネーム (1) 三和音 (2) 四和音 (3) 和音の転回 (4) 主要な長調の和音機能とコードの関係 (5) 特殊な形態によるコード 4 移調・移旋・転調						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力 豊かな保育者へ 第2版』(萌文書林) 『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』(教育芸術社) 『新版 和音伴奏による幼児のうた100曲 第2版』(全音楽譜出版社)				
参 考 書						

選 択 科 目	授 業 目 名	保育内容の理解と方法Ⅳ (図画工作・体育)	担 当 教 員	安田 賀津子 中山 やよい		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	前期・3年次	単位	2
授業目標 保育内容の理解と方法Ⅱで習得した技能や知識を発展させ、技能の習熟を図る。 (図画工作) 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、素材や教材の活用と工夫、指導計画について学ぶ。 (体育) 保育内容の理解と方法Ⅰ・Ⅱで学習してきた運動指導の意義と役割・乳幼児期の発達と運動遊びとの関わりについて改めて理解を深め、障害児と運動遊びについての基本的知識の習得と運動指導計画の実践力を養うことを目標とする。						
授業内容の計画 (図画工作) <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの発達段階に即した題材 2 子どもの発達段階に即した教材 3 子どもの表現活動を豊かにする環境構成 4 子どもの表現活動を豊かにする援助 5 プレゼント制作 6 指導計画立案 (体育) <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の発育・発達 2 乳幼児の運動遊び 3 乳幼児の運動遊びの実際 4 指導計画 5 乳幼児の安全教育 6 乳幼児の発達基準および評価 7 保育現場の特別活動における運動遊び 8 障害児と運動遊び 						
単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準 ・ 時 間 数		印刷教材による自宅学習時間数 90時間 レポート1 [50%] レポート2 [50%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。 ※単位取得には図画工作と体育の両方の履修が必要です。				
教 科 書		担当者より資料を配布する(図画工作対象) 『すこやかな子どもの心と体を育む「改訂 運動遊び」』(建帛社) (体育対象)				
参 考 書		(図画工作対象) 『保育所保育指針解説 平成30年3月』(フレーベル館) 『子どもの造形表現 -ワークシートで学ぶ』(開成出版) 『保育内容 表現[第2版] (新時代の保育双書)』(みらい) 『2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ』(ひかりのくに) (体育対象) 『運動あそび・表現あそび(指導方法を身につける理論と実例)』 (大学図書出版)				

選択必修科目	授業科目名	保育所実習Ⅱ	担当教員	小保方 敬子・平林 大佑 山口 知枝実 他		
	授業方法	実習	開講期・年次	3年次	単位	2
<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 3 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 4 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 6 実習における自己の課題を明確化する。 <p>保育所実習の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2 観察に基づく保育の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の援助や関わり (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 関係機関や地域社会との連携・協働 4 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6 自己の課題の明確化 						
単位認定の方法及び基準・時間数		実習日数及び時間 10日間かつ80時間 実習先及び担当教員の総合評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
実習先での学習について		実習先に訪問してオリエンテーションを受ける。				
教科書		『新・基本保育シリーズ② 保育実習』（中央法規出版） 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社） 『保育所保育指針解説 平成30年3月』（フレーベル館）				
参考書		『よくわかる保育所実習 第6版』（創成社） 『実習に役立つ保育技術』（創成社） 『実習日誌の書き方-幼稚園・保育所・施設実習完全対応』（一藝社）				

選択必修科目	授業科目名	保育実習指導Ⅱ	担当教員	小保方 敬子・平林 大佑※ 山口 知枝実 他		
	授業方法	演習	開講期・年次	3年次	単位	1
<p>実務経験のある教員等による科目</p> <p>保育現場の経験を基に、実践的な保育技術の獲得や職業倫理について様々な視点から展開していく</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を習得する。 3 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習による総合的な学び <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2) 子どもの保育と保護者支援 2 保育実践力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり (2) 保育の知識・技術を活かした保育実践 3 計画と観察、記録、自己評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4 保育士の専門性と職業倫理 5 事後指導における実習の総括と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化 						
単位認定の方法及び基準・時間数		<p>印刷教材による自宅学習時間 45 時間</p> <p>事前事後指導としてスクーリング必修</p> <p>レポート[100%] 事前課題レポートを提出日までに必提出</p> <p>※事前スクーリングの出席、レポートの提出がない場合、実習配属はできません。</p> <p>評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。</p>				
教科書		<p>『新・基本保育シリーズ②⑩ 保育実習』（中央法規出版）</p> <p>『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社）</p> <p>『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（フレーベル館）</p>				
参考書		<p>『よくわかる保育所実習 第 6 版』（創成社）</p> <p>『実習に役立つ保育技術』（創成社）</p> <p>『実習日誌の書き方-幼稚園・保育所・施設実習完全対応』（一藝社）</p> <p>『保育指導案大百科事典』（一藝社）</p>				

選択 必修 科目	授 業 目 名	施設実習Ⅱ	担 当 教 員	小保方 敬子 平林 大佑 他		
	授 業 方 法	実 習	開講期・年次	3年次	単位	2
<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。 2 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4 実習における自己の課題を明確化する。 <p>施設実習の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 2 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子ども（利用者）の家族への支援と対応 (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働 (6) 地域社会との連携・協働 3 保育士の多様な業務と職業倫理 4 保育士としての自己課題の明確化 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		実習日数及び時間 10日間かつ80時間 実習先及び担当教員の総合評価 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
実 習 先 での 学 習 について		実習先に訪問してオリエンテーションを受ける。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ② 保育実習』（中央法規出版） 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社） 『保育所保育指針解説 平成30年3月』（フレーベル館）				
参 考 書		『新保育士養成カリキュラム 保育士を目指す人の福祉施設実習』（みらい） 『福祉施設実習ハンドブック』（みらい） 『実習日誌の書き方-幼稚園・保育所・施設実習完全対応』（一藝社）				

選択 必修 科目	授 業 目 名	保育実習指導Ⅲ	担 当 教 員	小保方 敬子 平林 大佑 他		
	授 業 方 法	演 習	開講期・年次	3年次	単 位	1
<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習による総合的な学び <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2) 子どもの保育と保護者支援 2 保育実践力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子ども(利用者)の状態に応じた適切な関わり (2) 保育の知識・技術を活かした保育実践 3 計画と観察、記録、自己評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4 保育士の専門性と職業倫理 5 事後指導における実習の総括と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間 45時間 事前事後指導としてスクーリング必修 レポート[100%] 事前課題レポートを提出日までに必提出 ※事前スクーリングの出席、レポートの提出がない場合、実習配属はできません。 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・基本保育シリーズ② 保育実習』(中央法規出版) 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)』(チャイルド本社) 『保育所保育指針解説 平成30年3月』(フレーベル館)				
参 考 書		『新保育士養成カリキュラム 保育士を目指す人の福祉施設実習』(みらい) 『福祉施設実習ハンドブック』(みらい) 『実習日誌の書き方-幼稚園・保育所・施設実習完全対応』(一藝社)				

選択科目	授 業 目 名	相談援助の基盤と 専門職	担 当 教 員	小保方 敬子		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	前中期・3年次	単 位	4
<p>授業目標</p> <p>社会福祉の専門職として、今後益々活躍が期待されている社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義について理解する。又、相談援助の定義と構成要素を学ぶ他、相談援助の形成過程についても整理をする。特に、相談援助の理念について理解した後、総合的・包括的な援助を行うためにも、多職種連携の必要性を学ぶことを目指す。</p> <p>さらに、相談援助に係る専門職の概念と範囲、機能の理解、専門職倫理や権利擁護の意義についても理解を深める。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉士の役割と意義 2 精神保健福祉士の役割と意義 3 相談援助の概念と範囲 4 相談援助の理念 5 相談援助における権利擁護の意義 6 専門職倫理と倫理的ジレンマ 7 相談援助に係る専門職の概念と範囲 8 総合的かつ包括的な援助と多職種連携(チームアプローチ含む)の意義と内容 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 180 時間 レポート1 [100%] レポート2 [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職 第3版』 (中央法規出版)				
参 考 書		『現代の社会福祉士養成シリーズ 相談援助の基盤と専門職』 (久美出版) 『ソーシャルワーカー教育シリーズ① ソーシャルワークの基盤と 専門職 第2版』(みらい)				

選択科目	授業科目名	相談援助の理論と方法	担当教員	黒田 将史		
	授業方法	講義	開講期・年次	中期・3年次	単位	2
<p>授業目標</p> <p>相談援助の理論と方法は、援助者が利用者の生活上の困難を解決するために用いる援助技術（ソーシャルワーク）について学びます。本講義では、幾つかの援助技術技法について、実践モデル・実践方法、さらに、実践例（展開過程）を理解することを目指します。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワークとは何かの理解 2 相談援助の過程 3 自己覚知の必要性和倫理綱領の理解 4 相談援助の対象を理解 5 ソーシャルワークの歴史① ソーシャルワークの始まり 6 ソーシャルワークの歴史② 様々な実践理論やアプローチができるまで 7 ソーシャルワークの原理・原則 8 相談援助のための面接技法 9 相談援助における社会資源の活用 10 ケースマネジメントとケアマネジメント 11 集団を活用した相談援助技術 12 地域援助技術 13 記録の必要性 14 チームケアとネットワーク 15 インボランティアな利用者への対応 						
単位認定の方法及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教科書		『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法 I 第3版』 『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法 II 第3版』 (中央法規出版)				
参考書		『ケースワークの原則—援助関係を形成する技法—』 (誠信書房)				

選 択 科 目	授 業 目 名	福祉行財政と福祉計画	担 当 教 員	堀川 茂野		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	中期・3年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>福祉サービスを提供するためには法律を制定し、制度作りをするだけでは不十分であり、実際に制度を運用するシステムが必要となる。本講ではこのシステム＝行財政制度について現状の制度の理解や現状の課題を理解することを目的とする。具体的には国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源等の現状と課題を学習していくこととなる。</p> <p>また、現在は福祉サービスを運営していく際には「計画」というキーワードが必須となっており、地域福祉計画、介護保険事業計画等が制定されている。このような福祉計画について、意義や目的、主体、方法、留意点について理解することを目指されたい。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法定受託事務と自治事務 2 福祉行政の広域的調整、事業者の指導監督 3 サービスの実施主体、介護保険制度における保険者 4 地方分権の推進 5 福祉の財源 6 福祉行政の組織及び団体の役割 7 福祉行政における専門職の役割 8 福祉計画の意義と目的 9 福祉計画における住民参加の意義 10 福祉行財政と福祉計画の関係 11 福祉計画の主体 12 福祉計画の種類 13 福祉計画の策定過程 14 福祉計画の策定方法と留意点 15 福祉計画の評価方法 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90 時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60 点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・社会福祉士養成講座 10 福祉行財政と福祉計画 第5版』 (中央法規出版)				
参 考 書		『社会福祉理論の再検討』 (ミネルヴァ書房) 『社会福祉の歴史』 (有斐閣)				

選択科目	授 業 目 名	社会調査の基礎	担 当 教 員	松原 正裕		
	授 業 方 法	講 義	開講期・年次	中期・3年次	単 位	2
<p>授業目標</p> <p>社会福祉における社会調査の意義と目的を理解した後、各調査方法について学ぶ。具体的には、調査の意義、目的、及び量的調査の方法について理解し、調査実施のための基礎知識を習得する。さらに、社会調査における倫理上の留意点を学ぶために、社会福祉における個人情報保護への理解を深めることも目指す。</p> <p>授業内容の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会調査の意義と目的 2 統計法 3 社会調査における倫理 4 社会福祉における情報公開と個人情報保護 5 量的調査の方法 6 質的調査の方法 7 社会調査の実施に当たってのITの活用方法 						
単位認定の方法 及び基準・時間数		印刷教材による自宅学習時間数 90時間 レポート [100%] 評価は秀優良可の4段階とし、60点以上を合格点とする。				
教 科 書		『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎 第3版』 (中央法規出版)				
参 考 書		『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎 第3版』(中央法規出版)				